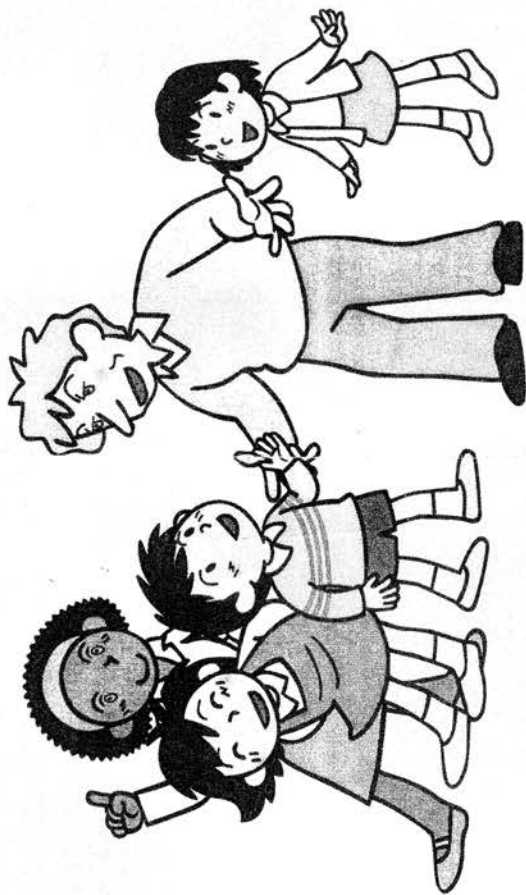


第36回全国協同学習研究大会

学 習 指 導 案 集



平成17年(2005年)2月18日

神戸大学発達科学部附属住吉中学校

第1学年2組 理科学習指導計画

指導者 上田 浩司

日時：平成17年2月18日（金）第5校時

場所：第2理科室

1. 単元名 「地震の科学」

2. 単元設定の理由

- (1) 本単元では、地震の体験や記録を基に、そのゆれの大きさや伝わり方の規則性に気づくとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解することが主なねらいである。

地震の原因であるプレートの変形は、長大な時間と広大な空間の中で形成される。さらに、地震のゆれは地球規模で伝わり、その被害は広範囲に及ぶ。しかし、授業の中でプレートの動きや地震によるゆれ、被害などを簡単に再現することは不可能である。また、中学校1年生では、長大な時間と広大な空間との関連の中で、地震に関する事物・現象を認識することは難しい。

通常ではとらえにくい縦波と横波のイメージを持たせ、それが初期微動と主要動の原因になること、初期微動継続時間が震源からの距離に関係することを見いだす。この学習過程を通して、地震に関する事物や現象を科学的に考察する。

阪神淡路大震災から10年経過したことやスマトラ島沖地震とインド洋の津波など今年の年末から今年にかけて、地震に関する話題が多かった。地震発生時に命を守るために、単なる知識だけでなく正確な判断力を持たせることをめざしている。

- (2) この単元について事前調査をした。結果は以下の通りである。

（実施日2005年1月17日実施 対象1年2組35名 数字は人数）

質問	はい	いいえ
1. 小学校で地震に関して学習をし、覚えている。	7	28
2. 「震度」「震源」という言葉を知っている。	33	2
3. 「震度」「震源」「マグニチュード」が正しく説明できる。	5	30

小学校では、第6学年「大地の変化」の内容として、地震によって土地が変化することが取り上げられている。しかし、この内容は選択項目であるうえ地震の原因についても扱われていない。対象クラスの生徒で、小学校において地震について学習し、少しだけでも覚えている生徒は約3割にすぎない。

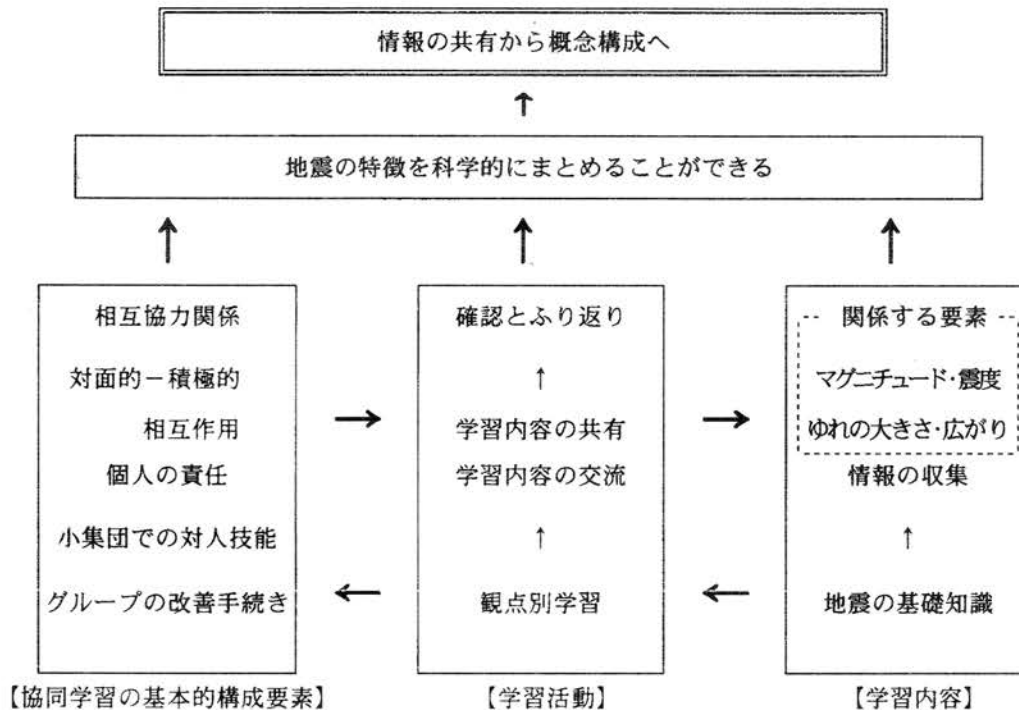
また、地震に関する事物・現象について調査したところ、ことばとしては「震度」「震源」「マグニチュード」などを知っているが、具体的にどのような内容かはほとんど理解できていない。さらに遠い地点で地震が発生した場合、揺れ始める時刻を予想させたところ、わからないと答える生徒が多い。阪神淡路大震災は2～3歳と非常に幼いときのできごとであり、身近な大人から聞いた話として知っているものはあるものの、実体験はほとんど記憶に残っていない。

(3) 本單元において、実物による観察や実験を行うことが難しいため、過去の地震の体験や記録だけで授業を進めても実感をとまなう知識にはなりにくいと考えた。そこで、地震の学習を「地震のゆれと伝わり方」や「ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間」「マグニチュードと震度」「地震のおこる原因と場所の分布」の4観点に分け（相互協力関係）、小集団の構成員がそれぞれ1つを担当する。観点別に集まった構成員は「理科ねっとわーく」（科学技術振興機構HP）などから情報を集め、他の構成員に説明できるように学習する（個人の責任）。それらを再生型コンセプトマップ作成ソフトウェア「あんどう君」¹¹に入力し、画面上でそれぞれ意見を出し学習した内容を交流・共有させようと考えた。（対面的－積極的相互作用）。以上の方法で地震を科学的にまとめ、概念を構成し知識の定着をはかりたい。

3. 単元のねらい

- ① 地震に関心を持ち、地震の原因や影響について調べようとする。
- ② ゆれの大きさや伝わり方の規則性に気づく。
- ③ 地震の体験や観測記録を調べ、結果をまとめたり発表する。
- ④ 地震のゆれと震源からの距離の関係や、地震の影響と原因を理解する。

4. 単元の構造図



5. 単元の展開と評価

時	流れ図 (学習主題・評価)	目 標	評価の観点				協同学習の 基本的構成 要素
			理 I	理 II	理 III	理 IV	
		1. 小学校で火山・地震について学習しましたか。 2. 「震度」「震源」という言葉を知っていますか。 3. 「震度」「震源」「マグニチュード」の意味を簡単に書きなさい。 4. 阪神大震災について知っていることを簡単に書きなさい。	○			○	
(1次) 1時	火山活動と 地表の変化	1. 火山活動とそれともなう地表の変化の様子をまとめることができる。	○	○	○	○	
2時 ・ 3時	火成岩のつくり	1. 安山岩と花こう岩を観察して、火成岩の特徴を調べることができる。 2. 安山岩と花こう岩のつくりの違いが説明できる。 3. 安山岩と花こう岩のでき方の違いが説明できる。	○		○		
4時 ・ 5時	火成岩と鉱物	1. 岩石は鉱物の集合体であることが説明できる。 2. 鉱物の観察ができる。	○		○	○	①
6時	火山岩と深成岩	1. 火山岩と深成岩について、比較しながらまとめることができる。	○	○	○	○	
(2次) 1時	地震用語と 基礎知識	1. 地震の説明に使われる用語とその意味が説明できる。 2. マグニチュードと震度の意味が説明できる。	○	○	○	○	
2時	地震と被害	1. 地震による被害について学ぶことができる。 2. テーマを分担することができる。	○		○	○	① ④
3時	テーマ別学習	1. 自分のテーマを調べることができる。	○	○	○	○	③ ④
4時 (本時) ・ 5時	学習内容交流	1. 自分の学習内容をわかりやすく説明することができる。 2. あんどう君を使って自分たちの学習内容をまとめたり、ふりかえることができる。	○	○		○	③ ④ ① ②
6時	学習内容の確認	1. 学習内容が定着したことが確認できる。 2. 相互評価ができる。	○	○	○	○	③ ④ ⑤

時	流れ図 (学習主題・評価)	目 標	評価の観点				協同学習の 基本的構成 要素
			理 I	理 II	理 III	理 IV	
(3次) 1時	① ↓ 岩石の変化	1. 風化のしくみが説明できる。		○		○	①
		2. 流水のはたらきが説明できる。		○		○	①
2時	↓ たい積岩	1. 堆積岩の観察を通して、つくりやでき方が説明できる。	○	○		○	③ ④
3時 ・ 4時	↓ 地層と化石	1. 化石による地層の年代と環境が推定できる。	○	○		○	
		2. 地層の重なり方やたい積岩の種類から過去のようすを推測することができる。	○	○		○	
1時	↓ 事後評価 ↓ 終	1. 次のことが説明できるか。					
「全 17 時」		①火山活動と地表の変化 ②火成岩のでき方と組織 ③地震の大きさと表し方 ④地震とその特徴 ⑤流水のはたらき ⑥地層と化石		○		○	

【評価の観点】理 I：自然事象への関心・意欲・態度

理 II：科学的な思考

理 III：観察・実験の技能・表現

理 IV：自然事象への知識・理解

【協同学習の基本的構成要素】

①相互協力関係

②体面的・積極的相互作用

③個人の責任

④小集団での対人技能

⑤グループの改善手続き

5. 学習指導過程・・・2次4時

(1) 主題 学習内容交流

(3) 学習指導過程

時	学習の流れ	生徒の学習活動
0	<p>リーダー学習をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダー学習の問題を解く。 ○主題とねらいの確認をする。
5	<p>本時の学習の進め方について説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を聞き、本時の学習の進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを必ず入れるようにする。 ・相手にわかりやすく説明する。 ・積極的に話し合うことを確認する。
10	<p>前時に学習した内容の交流する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当内容を小集団にわかりやすく伝える。 ○学習した内容をあんどう君に入力する。 ○「あんどう君」の画面を見ながら積極的に意見交換をする。 ○「あんどう君」の画面を見ながら学習内容をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを積極的に発言する。
35	<p>小集団が発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指名された小集団は前に出て、自分たちの話し合った内容を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・指名された小集団は大きな声で発表する。 ・自分たちの参考になる点がないか、意識しながら聞く。 ・発表後、修正すべき点のメモをとる。
45	<p>本時のまとめをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の評価を自己評価シートに記入する。 ○本時のまとめを聞き、次時の学習予定を知る。
50	<p>終</p>	

- (2) ねらい 1. 自分の学習内容をわかりやすく説明することができる。
 2. あんどう君を使って自分たちの学習内容をまとめたり、ふりかえることができる。

主な発問・指示	指導上の留意点・評価	協同学習の基本的構成要素
<p>○前時に4つの小テーマに分かれて学習しました。その内容を小グループのメンバーにわかりやすく丁寧に説明しなさい。</p> <p>○学習内容を「あんどう君」に入力し、地震に関するコンセプトマップを作り、より科学的に考えられるようにしなさい。</p> <p>○話し合いが活発だった小グループに発表してもらいます。自分たちの話し合いで、たりなかった部分・修正すべき部分をメモしておきなさい。</p>	<p>○教科リーダーには、前時までに学習した内容から出題するよう事前に指示・確認する。</p> <p>○聞いている人をしっかり見ながら話そう指導する。</p> <p>○主題とねらいの補足説明をする。</p> <p>○話し合いでは、自分の考えを積極的に発言することを指示する。</p> <p>○小グループが活発に話し合うよう指示する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・前時の学習内容をわかりやすく説明できているか。</p> <p>・説明のポイントを押さえてメモを取って聞くことができているか。</p> <p>・あんどう君の画面を見ながら、積極的に意見交換することができる。</p> </div> <p>○話し合いが活発な小グループを1つ指定し発表するよう指示する。</p> <p>○本時の評価を自己評価シートに記入させる。</p> <p>○次時は本時の続きをすることを予告する。</p>	<p>①相互協力作用</p> <p>③個人の責任</p> <p>①相互協力作用</p> <p>④小グループでの対人技能</p> <p>②対面的—積極的相互作用</p> <p>④小グループでの対人技能</p> <p>⑤グループの改善手続き</p>

1年2組 生徒学

教師

A			
男	操作係	女	リーダー
ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間		地震の起こる原因と場所の分布	
男	準備係	女	記録係
マグニチュードと震度		地震の揺れと伝わり方	
1班			
男	記録係	男	準備係
マグニチュードと震度		ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間	
女	操作係	女	リーダー
地震の起こる原因と場所の分布		地震の揺れと伝わり方	
B			

A	
女	リーダー
地震の起こる原因と場所の分布	
女	記録係
ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間	
3班	
女	記録係
ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間	
女	リーダー
マグニチュードと震度	
B	

A			
女	準備係	男	リーダー
ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間		マグニチュードと震度	
女	記録係	男	操作係
地震の揺れと伝わり方		地震の起こる原因と場所の分布	
2班			
女	操作係	女	リーダー
地震の揺れと伝わり方		地震の起こる原因と場所の分布	
男	記録係	女	準備係
マグニチュードと震度		ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間	
B			

B	
男	記録係
地震の起こる原因と場所の分布	
女	記録係
ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間	
女	記録係
地震の揺れと伝わり方	
4班	
男	記録係
ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間	
男	記録係
地震の揺れと伝わり方	
A	

習フプロフィール

月机

男	操作係	マグニチュードと震度
男	準備係	地震の揺れと伝わり方
班		
男	操作係	地震の起こる原因と場所の分布
男	準備係	地震の揺れと伝わり方

男	記録係	マグニチュードと震度
女	記録係	地震の揺れと伝わり方
班		
女	記録係	地震の起こる原因と場所の分布
女	記録係	マグニチュードと震度

A			
男	操作係	女	リーダー
地震の起こる原因と場所の分布		ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間	
男	準備係	女	記録係
マグニチュードと震度		地震の揺れと伝わり方	
5班			
女	準備係	女	リーダー
マグニチュードと震度		地震の揺れと伝わり方	
女	記録係	男	記録係
ゆれ始めた時刻と初期微動継続時間		地震の起こる原因と場所の分布	
B			

第2学年2組 数学科 学習指導計画

指導者 前田裕次

日時：平成17年2月18日(金) 5校時

場所：2年2組教室

1. 単元名 「確率」

2. 単元設定の理由

- (1) 確率はフランスの有名な数学者・哲学者パスカル(1623～1662)にはじまるといわれている。賭に関する問いが契機になったのは、面白いことである。確率は偶然や可能性を扱う数学であり、日常生活の中にある経験的な事実を通して計量化することが要求される。

確率・統計に関する内容として、小学校では、第4学年で「目的に応じて資料を集め、分類・整理したり特徴を調べたりすること」としており、第5学年では「確定的な事象の割合を百分率で表し、グラフや表で表すこと」、第6学年では「平均など単位あたりの大きさ」や「二つの量を割合で比べること」を学習内容としているが、確率を学ぶ単元としては充分とはいえない。

日常よく耳にする降水確率やID野球など確率を計算して、不確実な事象を予測しようとしたり、対処しようとしたりすることは現代社会の中に数多く存在する。それらを教材として取り上げることは、生徒の興味や意欲を高める上で非常に有効であるだけでなく、数学のよさや有用性が日常の中に生かされていることを実感できる場でもある。また、宝くじなどを買う際にも確率を考えた上で判断することは必要不可欠である。

確率や実験、操作など具体的な活動を通して、確率の基本的な意味を理解できるようにする。また、起こり得るすべての場合が同様に確からしいと認められる事象では、実験や観察によらなくても確率が求められることを理解し、それを樹形図や表を利用して求めることができるようにすることが必要である。

このように、確率の見方や考え方を深めることを目的として、本単元を設定した。

- (2) この単元について事前調査をした結果は次の通りである。(12月14日実施対象2年2組38名)

1. 数学は好きですか。	好き 10人	ふつう 24人	きらい 4人	
2. 数学の分野はどれが好きですか。	計算 12人	関数 2人	図形 22人	確率 2人
3. 2つのことがらA, Bのうちどちらが起こりやすいか答えなさい。				
(1) 男子16人、女子23人いるクラスで、1人の代表をくじ引きで決めるとき				
A 男子が代表になる。	B 女子が代表になる。			
A 1人	B 37人	どちらもでない 0人		
(2) 10円硬貨を投げるとき。				
A 表が出る。	B 裏が出る。			
A 1人	B 2人	どちらもでない 35人		

数学が「好き」、「ふつう」と答えた生徒は大半が数学において苦手意識はないと答えている。また分野別で好きな理由を挙げさせたところ、図形分野に対しては「いろいろな見方で解けるから楽しい」のような理由が見受けられた。確率については「予想を数学的に出せるから」やってみたいと答えている。起こりやすさの問いに対して(1)は「女子の方が人数が多いから」、(2)は「5分5分だから」のような理由が多く見られた。課題内容が平易な場合、場合わけを中心とした見方を多くの生徒ができています。しかし、頻度を中心とした見方は乏しいようである。まず、実験を行いそれを根元事象の頻度によって考えるという見方を十分に培う必要があると思われる。

- (3) 起こりやすさを予測する活動から単元を導入する。その予測した起こりやすさを実験などを通して自ら確かめる活動を重視する。なぜなら、自分の予測と違う結果を受け止め、その理由を考えることを通して数学

的確率の考え方を筋道を立てながらつくりあげていくことができるようになるからである。その過程で「同様に確からしい」「全事象の空間」「大数の法則」など確率の学習を進めていく上で重要な性質に気づくことができると考えている。追究活動は小集団を中心とし、それぞれの考えを共有し深めていくために、学習プロフィールを活用する。

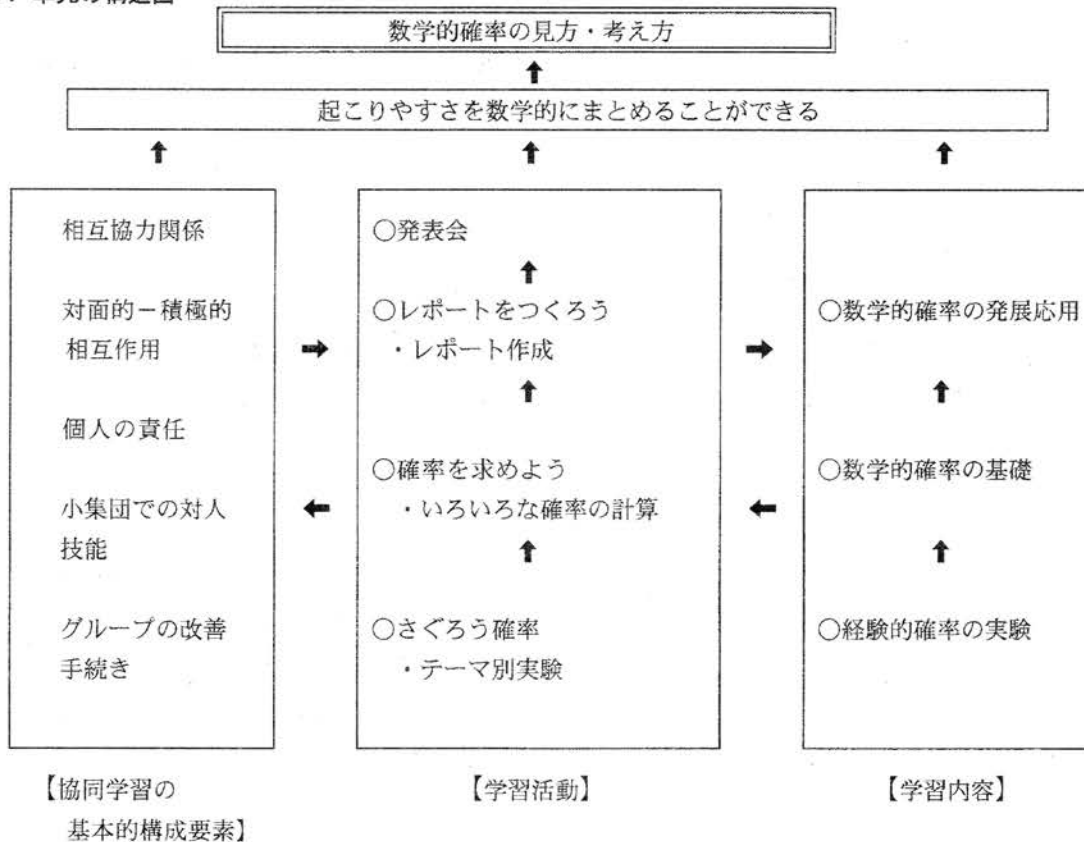
次の小単位では、「確率を求める」ことを中心に、学習したことを正しく使えることを目的とした学習に取り組む。ここでは、協同学習を取り入れ、それぞれが達成すべき課題をもち、協力し、教え合うことで互いを高め合っていけるよう配慮する。あることがらを分類したり整理するとき、多様なケースを想定し、系統的にもれなく重複なく数え上げなければならない課題を取り上げる。特に、樹形図を書くことが、確率を正確に求めることにつながることを理解させたいと考えている。

最後の小単位では、発展的な活動としてワンシートレポートづくりをおこなう。生徒一人ひとりが、自分で事象の起こりやすさを予測する場面を設定し、統計的確率、数学的確率の考え方をを用いて、追究活動をおこない、その過程をワンシートレポートの形にまとめて提出する。課題を発見するときには協同学習を活用し、適切な課題を選ぶことができるよう互いにアドバイスし合えるように配慮する。

3. 単元のねらい

- (1) 確率的な見方や考え方を深めることができる。
- (2) 確率の意味が説明できる。
- (3) 簡単な場合について、確率を求めることができる。

4. 単元の構造図



5. 単元の展開と評価

時	流れ図 (学習主題・評価)	目 標	評価の観点				協同学習 の基本的 構成要素
			数 I	数 II	数 III	数 IV	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1. 数学は好きですか。 2. 数学の分野はどれが好きですか。 3. 確率の分野は好きですか。 4. 起こりやすさを答えなさい。 </div>	○				
[1次] 1時 ～3時 4時 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [さぐろう確率] 起こりやすさを調べる </div>	[1. 起こりやすさを予測しよう。] 1. あることがらの起こりやすさの度合いを調べる方法が説明できる。 2. 確率の意味が説明できる。	○	○	○	○	① ② ② ③
[2次] 1時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [確率を求めよう] 確率の求め方 </div>	[1. 簡単な場合の確率を求めることができる。] 1. 同様に確からしいとき、確率の求め方が説明できる。 2. 簡単な場合の確率を求めることができる。		○	○	○	① ③
2時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 確率の応用 確率の計算(1) </div>	1. 樹形図を書いて確率を求めることができる。 2. ある事象が起こる確率と起こらない確率との関係が説明できる。			○		① ③ ① ②
3時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 確率の計算(2) </div>	1. やや複雑な場合の確率を求めることができる。 2. 確率に関するいろいろな問題を解くことができる。			○		① ③
4時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 練習問題 </div>		○	○		① ③	
[3次] 1時 ～3時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [レポートをつくろう] 確率を考える ① </div>	[1. 確率レポートをつくることができる。] 1. 確率レポートをつくることができる。 2. レポート発表をすることができる。	○	○	○	○	③ ③

時	流れ図 (学習主題・評価)	目 標	評価の観点				協同学習 の基本的 構成要素
			数 I	数 II	数 III	数 IV	
[4次] 1時	① ↓ 〔事後評価〕 確かめと自主学習	1. この単元の学習内容を確認することができる。 2. 理解度に応じて自分で課題を見つけ、学習できる。	○	○	○	○	③ ⑤
2時	↓ ◇ 事後評価 ◇	1. 「確率」の単元の内容とその関連をわかりやすくまとめられるか。 2. 確率の意味が説明できるか。 3. 場合の数を求めることができるか。 4. 確率的な見方や考え方ができるか。			○	○	
3時 「計 14 時間 」	↓ □ 診断直し □ ↓ △ 終 △	1. 診断の間違いが訂正でき、わからなかった部分が説明できるようになる。	○		○		③

【評価の観点】

数 I	数学への関心・意欲・態度
数 II	数学的な見方や考え方
数 III	数学的な表現・処理
数 IV	数量、図形等についての知識・理解


【協同学習の基本的構成要素】

①	相互協力関係
②	対面的-積極的相互作用
③	個人の責任
④	小集団での対人技能
⑤	グループの改善手続き

6. 学習指導課程・・・1次4時

(1) 主 題 起こりやすさを調べる

(3) 学習指導課程

時間	学 習 の 流 れ	生徒の学習活動
0		○リーダー学習をする。
5		○学習の主題とねらいの確認をする。
	L学習をする	
	課題	○実験をおこなった確率を求める。
		① 1つのサイコロを投げる。
	発表する	② 10円玉2枚を区別しないで同時に投げる。
		③ 10円玉と100円玉を同時に投げる。
		④ ペットボトルのキャップを投げる。
		⑤ 将棋の駒を投げる。
		○小集団で実験したデータと求めた確率を比較し、意見交換をして考えをまとめる。
	まとめ	○実験したデータと求めた確率を比較をまとめ、グループごとに発表する。
		○各自、ふりかえりを書く。
	終	○次時の予告を聞く。
50		

(2) ねらい 確率の意味が説明できる。

主な発問・指示	指導上の留意点・評価	協同学習の基本的構成要素
<p>○実験に関する確率を求めてみよう。</p> <p>○実験したデータと求めた確率を比較し、まとめてみよう。</p> <p>○まとめたことを発表してみよう。</p>	<p>○教科リーダーに問題を出題させ、答え合わせをさせる。</p> <p>○それぞれの出方に注意し、確率を求めさせる。</p> <p>○実験値と数学的確率の違いについて理解させる。</p> <p>・同様に確からしいことを理解できているか。</p> <p>○②、④、⑤と①、③の違いに注目させる。</p> <p>○グラフ電卓を使用して理解させる。</p>	<p>○相互協力関係</p> <p>○相互協力関係</p> <p>○小集団での対人技能</p> <p>○個人の責任</p> <p>○個人の責任</p> <p>○個人の責任</p>

学習プロフィールの見方
(性別)
※課題内容
確率の実験(160回)を
おこなつてのふりかえり

(女子) 少し事はあるけど、 だいたい平均的な 確率だった。	(男子) この前実験をしてみたら、 どうやら確率でどんな 数か決まるのかという と興味もかもてました。 今後、いろんなことと興味 をもつて実験のこと知りた
---	---

(男子) 確率は4.3と正しいと思 た。9-9のときも正確な 数が出た。	(女子) 「将棋」(女子) しょうぎで実験すると、 起こることを知らずに 出る回数が全然違っていた。 確率が低いのと高いのに 分がわけていた。	(女子) 数が少なくて大変だったけれど 楽しかった。 結果は、だいたいは同じくらい の確率で、一つ一つの目が でた。	(男子) かなりバラバラだったけれど 平均はありかい ズレはありませんでした。
---	---	---	--

(女子) 将棋を投げるとき、投 げ方をバラバラにしたけど 一緒の方が良かったかと思 いました。同じ条件がよくな かった。おもしろかったです。	(女子) 面積が広いほどで 確率が高い 出る種類が5つあるけど 1/5じゃなし	(男子) コイン(10円、100円玉)で実験 した時、いつも同じ1/2が 多く、回数も数える に時間がかかった。	(女子) 大変だったけど、確率 の意味がわかってきて おもしろかったです。 裏か出る表か出るかの 確率のことわかった。
---	---	--	--

(男子) 表裏が他より出やすい 投げるときを変えたら結果 が変わる	(女子) 前回の実験では、裏側に 自分で調べてみることで きいて、確率ってものが どういうものなのか わかりました。	(女子) 私の班は100円玉と10円玉 だけだと分かりやすかった けど10円玉2枚の場合は 組み合せが3パターンしか ない理由が分からなかった。	(男子) 表裏の4パターンで、 確率を出るとは、これ おもしろいなあと思 いました。 確率は、いろんな方法 で出すことができるだ なあと思しました。
--	---	---	---

(女子) しょうぎの場合、ほとんどが 裏か表のどちらかがほとんど で出たりすることもある か、たまたま、かなり実験が できました。	(男子) 常に不規則な結果 を得られた	(男子) 両方の場合と両方裏の場合 はそれぞれ全体の1/4くらい で1/2か裏で1/2か裏の場合 が全体の1/2より多かった。 全体からスタートするとし 結果もほとんどきれいな数にな った。	(女子) ☆71411☆ (女子) 私の班では10円玉2枚での表裏 の確率を調べて、どの確率も 差があることがわかりました。 今回の実験は有効な12個で 確率を出せました。 だから、この組み合わせが 出たときは、裏表が別々 裏表は同じでいいです。
--	---------------------------	--	--

(男子) 回数を増やして 正の確率を出せること はわかった。たのしかった。 1/2のときも、たまたま 裏か出た。おもしろ かった。	(女子) 表と裏がわかった。 たつのは少なかったが 何回かあって、上層を下に したのがわかった。 ら不規則な感じが した。	(女子) 表裏がいっぱい出たこと で、だいたい全部同じ くらいになると思 っていたので意外 だった。	(男子) 表裏が一番多かった たことがわかった。
---	---	---	--------------------------------

(男子)
サイコロの出る目
などで考えたことが
少ないから、おもしろ
かった。

(女子)
サイコロの出る目
など、大規模で、よく
わかった。
またやりたいと思、た、

(女子)
帰省してきてからの
スムーズにはすすみ
授業中におられたので
良かったです。

(男子)
楽しんでいただける
よう頑張ります。
サイコロは思ったよりも
バリエーションがなかった。

()

(男子)
サイコロと違い、バリエーション
が少ないので、(キャップは)
実感がやりやなかった。
3つのバリエーションの中で
横向きが2回も
あったのでおもしろかった。

(女子)
してても面白かったので
20回の方々に比べ、
少しも結果が出た
ので良かった。
表裏、裏裏はなかなか
出ないと思、ていた
けれど、こう出た。

(女子)
実験はすごく楽しかったです。
~~表裏も裏裏も~~
おもしろく、結果も
おもしろく、結果も
おもしろく、結果も
おもしろく、結果も
おもしろく、結果も
おもしろく、結果も

(女子)
います、上向きになるの
と下向きになるのでは
同じ確率かと思、てい
ました。実際は違、たの
で不思議と思、ります。

(女子)
何回かバットホトリの
フタは下向きの方が
多かった。底面積が何かの
関係か?

1000回もやって大変だ、た
けれど確率の意味が
理解することができて、
よかったです。(女子)
またやりたいと思、ました。

やりにくそうと思、た
けれど、やってみると楽し、か、
し、面白、かつ、て、おもしろ
かったことになりました。

(女子)
キャップの裏表横の
確率が分かった。

いろいろな確率の
ことがわかって
よかったです。
(男子)

(男子)
最初は、確率は、10円玉
2枚を投げた時、ひか
たが、種類、たが、
ちが、い、思、て、た、け、
ど、
に、
た、

(女子)
たくさんの方々があり、
うておもしろ、か、
(実験)
でも、
な、
た、

(男子)
バットホトリのキャップ
は裏に傾、き、か、
と分、か、つ、た。
ど、
結、

(女子)
キャップの表、裏、横、の
実験をして、出、て、
確、

(女子)
たくさんやっていくと
表、裏のペアで出ること
が増えて、両方が同じ面
を出すのは少ないんだ
なと思、ました。

(男子)
表・裏が一番多かった
は、
だ、
か、
な、

第1学年3組 社会科 学習指導計画案

指導者 乾 正 学

日 時 : 平成17年2月18日(金) 5校時

場 所 : 1年3組教室

1. 単 元 名 「中世の盗みの罪と罰」

2. 単元設定の理由

(1) 日本の「安全神話」が崩壊している。一昔前、「水と安全はタダ」と言われていた日本が、である。年少者を狙った凶悪殺人等、予想をはるかに超えたスピードで、日本の治安は悪化の一途をたどっている。そんな深刻な状況とリンクするかのようになり、近年、少年犯罪が多発している。そして現代の少年犯罪で一番多いのは、「窃盗」(「万引き」を含む)である。今日、人が集まれば必ず「移動の際は、貴重品を各自持つようにして下さい。」といった呼びかけを耳にすることが多い。このことは、同時にそれだけ今の社会に「盗み」が蔓延していることを意味している。

一方で、ものの豊かな現代においては、「使い捨て」の物品が普及し、「もの」を大切にするという感覚が失われつつあるように思われる。このような「もの」軽視の感覚は、盗みに対する軽罪観を生みやすく、したがって他人のものを盗んでも、「返せばいいんですよ!」というように、「ものの移動で解決」してしまったり、お金で解決すればよいということになりがちである。

他方、現代においても親などの親しい人からの「形見の品」や、苦勞の末に手に入れた「もの」への愛着感は、「お金」で代替することができない感覚として残っているのも事実である。このように現代社会において頻発する盗みという行為を、中世の人々はどのような意識でもって捉えていたのかを探求することを通して中世社会の一端を理解し、さらには、現代社会に生きる生徒たちの法意識(「罪と罰」の意識)を身近な問題として考えさせていきたい。

以上の理由から本単元を設定した。

(2) この単元について事前調査をした結果は次の通りである。

(実施日: 1月17日/対象クラス・人数: 1年3組・計37名)

①小集団活動は好きですか。

好き 7名 どちらかといえば好き 22名 どちらかといえば嫌い 8名 嫌い 0名

②小集団活動は個人で学ぶことよりも、力がつくと考えますか。

ある 12名 どちらかといえばある 23名 どちらかといえばない 1名 ない 1名

③法律に対するイメージは次のどれですか。

しばられている 5名 守ってくれる 8名 身近である 5名 身近でない 5名

物事を進めるのに必要 12名 その他 2名

④「軽罪・重罪」あなたはどんな基準で判断しますか。

・人の命を奪うかどうか。取り返しのつく、つかないこと。被害者の傷つき方。基本的に2つに分けられない。盗みは代わりのもので代えられる、など。

⑤「盗み」は軽罪でしょうか?重罪でしょうか。 軽罪 18名 重罪 19名

[軽罪] 人を傷つけていないから。コンビニのものは軽罪。もどせるものだから。

[重罪] 大切なものを奪うのは重罪。だんだん人は罪意識がなくなっている。

上記のアンケート結果を見ると、小集団活動については「どちらかといえば好き」を含めると80%近くに達しており、比較的好意的に受け止めている。また、小集団活動の有効性については、大多数の者が個人学習の時よりもその有効性を認めている。「個人で考えるより、いろいろな見方ができる」などを理由に挙げている者が多く、自己の意見を踏まえた他者との意見交流を期待していると考えられる。

また法律に対するイメージは、「物事を進めるのに必要」や「守ってもらえる」を合わせて、50%を超えており、「権利・調整」機能として法律を捉えているようだ。一方で、「しばられている」というように、「上からの抑圧イメージ」を持っている者も少数ではあるがいる。次に、軽罪・重罪の判断基準の設定であるが、「人の命を奪うか、傷つけるかどうか」という意見記述が一番多い。「取り返しがきくかどうかや謝罪で済むかどうか」といった記述も見られる。他方、罪に軽重はつけられないとする意見も少数ではあるがあった。

また、「盗み」に対する犯罪観については、軽罪・重罪とも拮抗している。軽罪派に多いのは、「取り替

えがきく」で、重罪派は「大事なものを盗まれることで深く傷つく」との意見記述が見られた。「被害者の心を重視する」のか「代替品・弁償」で済ませるのか、生徒たちの「盗み」に対する法意識が如実に表れている。

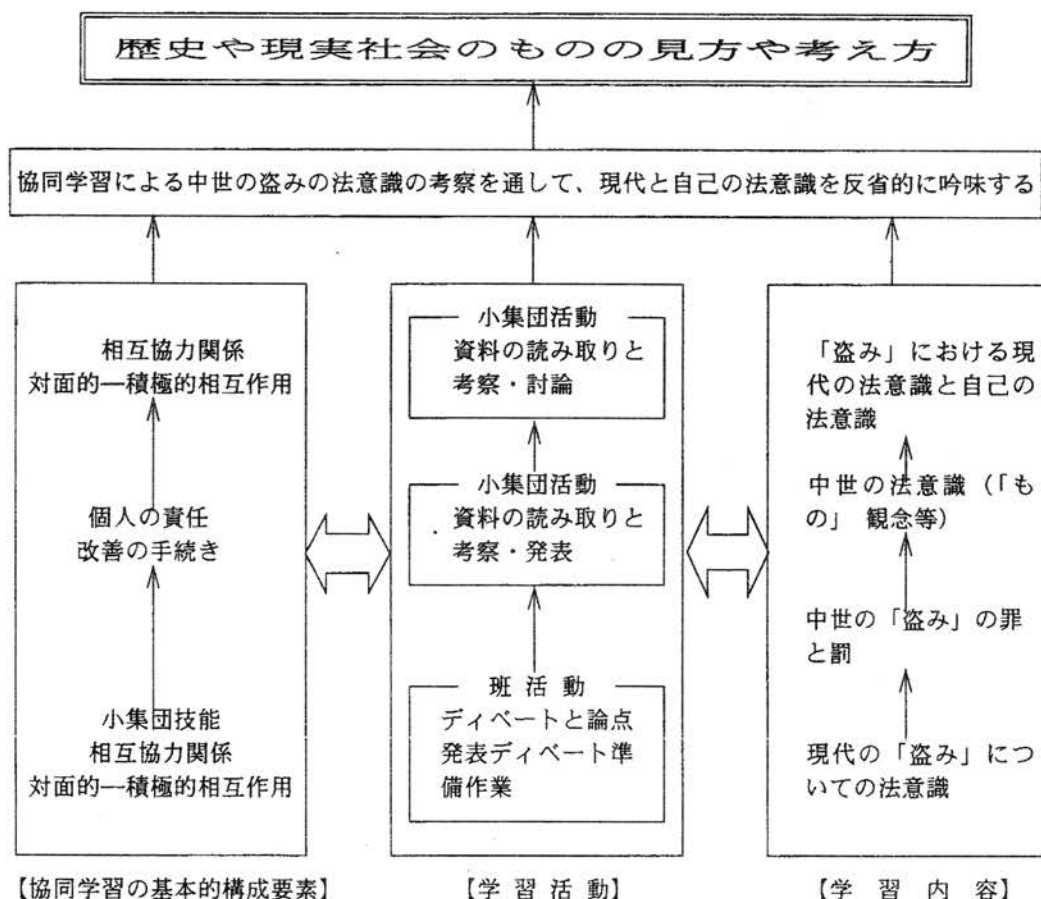
(3) 上記のアンケート結果の分析と考察を踏まえて、小集団の構成員同士が中世の盗みに対する法意識の考察を多面的に共感的に取り組み、活発な意見交流ができるよう支援していきたい。具体的には、クイズ形式によって歴史事象の事実把握をおこなう。さらに構成員一人ひとりに課題を設定し、その課題から得られた情報を集約することを通して相互協力関係を仕組む。最後に、構成員同士による意見交換を通して得られた情報を深め広げていくのである。

また、中世の法意識と生徒たちの法意識の間には、共通性と相違性がアンケート結果からも窺える。たとえば、「盗みを弁償や代替品で補う」という合理的な発想部分は中世との共通性が見られる一方、「盗みは死刑」という中世の過酷な刑罰実態に対しては、いくら重罪とした生徒たちもそこまでの犯罪観は生まれなであろう。中世の法制度や「もの」に対する観念に、中世と現代ではどのように違うのか？あるいは、どこが似ているのか。生徒のイメージと探求心を喚起させる教材によって、中世と現代の法意識に迫らせたい。

3. 単元のねらい

- ①協同学習を通して、共に学び合う気持ちを育てることができる。
- ②中世の人々の法意識を多面的に考察することができる。
- ③中世や現代の資料を正確に読みとり、話し合いに活かすことができる。
- ④中世の人々の法意識の探求を通して自己や他者の法意識を反省的に吟味し合うことができる。

4. 単元の構造図



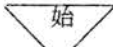
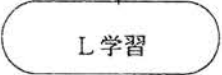
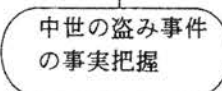
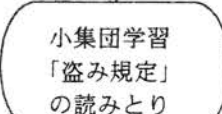
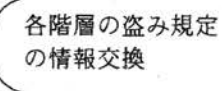
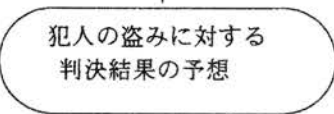
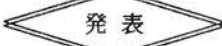
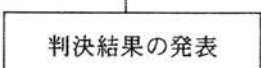
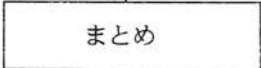
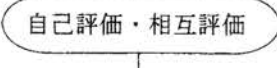

5. 単元の展開と評価

時	流れ図 (学習主題・評価)	目 標	評価の観点				協同学習の 基本的構成 要素
			社 I	社 II	社 III	社 IV	
		<p>1. 小集団で学ぶことは楽しいですか。</p> <p>2. 小集団で学ぶことは個人で学ぶことよりも、力がつくことが多いと思いますか。</p> <p>3. 法律に対するイメージは、次のどれですか。</p> <p>4. 軽罪・重罪の判断基準は何ですか。</p> <p>5. 「盗み」は軽い罪・重い罪のどちらだと考えますか。</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
[1次] 1時	<p>【自己の「盗み」に対する罪と罰】 ディベート準備 「盗み」は軽罪か、重罪か?</p>	<p>〔自己や現代社会の盗みに対する罪と罰を見つめることができる。〕</p> <p>1. 自己や現代社会の盗みに対する罪と罰を見つめ、与えられた立場で論を組み立てることができる。</p> <p>2. 班員同士で協力しあいながら、ディベートの準備を進めることができる。</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	① ②
2時	<p>ディベート実施 「盗み」は軽罪か、重罪か?</p>	<p>1. 相手の立場の尊重等ディベートのルールを守りつつ持論が展開できる。</p> <p>2. 協力しあいながらディベートの運営を進めることができる。</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	① ②
[2次] 1時 (本 時)	<p>【中世の罪と罰と現代の罪と罰】 中世の盗みの罪と罰に迫る！</p>	<p>〔中世の法意識と自己や現代の罪と罰との比較考察ができる。〕</p> <p>1. 個人分担の資料を正確に読みとり、積極的に小集団で話しあうことができる。</p> <p>2. 中世の盗みの罪と罰の内容が理解できる。</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	① ② ③ ⑤
2時	<p>中世の人々の「もの」に対する思いに迫る！</p> <p>①</p>	<p>1. 中世の人々の「もの」に対する見方を示す資料を読みとり、考察することができる。</p> <p>2. 小集団で進んで意見交換ができる。</p> <p>3. 中世の人々の「もの」に対する見方が理解できる。</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	① ②

6. 学習指導過程……2次1時

(1) 主 題 中世の「盗み」の罪と罰に迫る！

(3) 学習指導過程

時間	学 習 の 流 れ	学 習 活 動
0		<ul style="list-style-type: none"> ○リーダー学習をする。
5		<ul style="list-style-type: none"> ○学習の主題とねらいを確認する。
5		<ul style="list-style-type: none"> ○「腰刀盗難事件」の資料を読む。 ○クイズ『湯起請』(ゆぎしょう)とは何か?」を答える。
10		<ul style="list-style-type: none"> ○小集団(4名)内で、「盗み」に関する「幕府法・律令・荘園領主法・村(惣)掟」の規定を4人(5人)で分担して読みとり、ワークシートに記入する。
15		<ul style="list-style-type: none"> ○各規定の読みとり情報を班員に伝達する。 ○小集団リーダーが司会する。各自の情報をワークシートに整理する。(知識の総合化)
25		<ul style="list-style-type: none"> ○犯人の盗みに対する判決結果を話し合う。
30		<ul style="list-style-type: none"> ○理由を添えて各班の代表が発表する。
40		<ul style="list-style-type: none"> ○実際の判決結果を聞く。
45		<ul style="list-style-type: none"> ○中世の盗みの罪と罰に関する学習内容を整理する。
45		<ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習を振り返り、評価シートの自己評価欄に記入する。班員にはポストイットに評価を記入し渡す。学習の振り返りの情報交換を行い、次時に向けての課題を明確にする。
45		

(2) ねらい

1. 個人分担の資料を正確に読みとり、積極的に小集団で話しあうことができる。
2. 中世の盗みの罪と罰の内容が理解できる。

主な発問・指示	指導上の留意点・評価	協同学習の基本的構成要素
<p>「この腰刀を盗んだ犯人は、誰によって裁かれたのでしょうか？」</p> <p>「この犯人の裁判結果（刑罰）を予想しましょう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科リーダーが問題を出題し、答え合わせをする。本時の内容に関連させたリーダー学習をさせたい。 ○本時の小集団リーダーを確認しておく。 ○資料は、「現代語訳」に書き換え、読みとりやすくしておく。 ○クイズは、三択クイズ形式で、クイズカードを用意させる。 ○盗み規定の各資料を一人が責任をもって担当し、読みとり情報をワークシートに記入させる。担当はすでに決まっているが、欠席者がいる場合は、他のメンバーにフォローさせる。 ○小集団リーダーを司会に話し合いを進めさせ、各資料の読みとり情報を正確に伝達させたい。 ○各資料を総合的に判断して、「裁いた人・判決理由」を考慮しながら判決を予想させる。 ○判決予想をフリップに書かせ、小集団の代表に発表させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・資料解釈、小集団活動の意見交換を踏まえて判決結果を発表できるか。 </div> ○中世の盗みの罪と罰の内容を理解させる。 （農村や荘園領主は、窃盗重罪観、幕府法・律令は窃盗軽罪観の立場にたっていること。裁判は事件の当事者同士で解決することが原則であった。） ○自己評価・相互評価を行い、自身や小集団が学習を進める上での課題を発見させて、次時の授業に臨ませたい。 	<p>協同学習の基本的構成要素</p> <p>相互協力関係 個人の責任</p> <p>対面的・積極的相互作用</p> <p>改善の手続き</p>

窓

側

女子 「村掟」担当	男子 「幕府法」担当
1 A	
男子 「律令」担当	女子 「荘園法」担当

女子 「村掟」担当	女子 「律令」担当
2 B	
男子 「荘園法」担当	女子 「幕府法」担当

女子 「村掟」担当	女子 「律令」担当
3 A	
男子 「幕府法」担当	女子 「荘園法」担当

女子 「幕府法」担当	男子 「荘園法」担当	
2 A		
男子 「律令」担当	男子 「村掟」担当	女子 「幕府法」担当

女子 「荘園法」担当	男子 「律令」担当
3 A	
男子 「村掟」担当	女子 「幕府法」担当

女 「幕府法」担当

席表 1 年 3 組

(前)

女子 「律令」担当	男子 「幕府法・村掟」 担当
1 B	
男子 「村掟」担当	女子 「荘園法」担当

女子 「幕府法」担当	男子 「荘園法」担当
4 A	
男子 「村掟」担当	女子 「律令」担当

男子 「荘園法」担当	女子 「幕府法」担当
5 B	
女子 「律令」担当	男子 「村掟」担当

女子 「律令」担当	男子 「村掟」担当	男子 「荘園法」担当
4 B		
男子 「律令」担当	女子 「幕府法」担当	

男子 「村掟」担当	女子 「荘園法」担当
5 A	
女子 「律令」担当	男子 「幕府法」担当

第1学年1・4組男子保健体育科学習指導計画

指導者 石丸 幸勢

日時：平成17年2月18日（金）5校時

場所：体育館

1. 単元名 「組運動（器械体操／マット運動と跳び箱運動）」

2. 単元設定の理由

(1)組運動は、これまでは一人で行ってきたマット運動や跳び箱運動などの器械運動を、4人のグループで演技を構成して表現する運動である。例えば、前転のように簡単な技能でも、4人で方向やタイミングを工夫してみたり、2人から4人で違う技を組み合わせて行ったりすることで、一人ではできない演技を組み入れることができる。そのため、一人ひとりの技能や体力に応じて技能を無理をしないで選ぶことができる。また、いつもグループ内の支援や励ましを受けることができるので、一人で練習するよりも効率よく技能を高めることが可能である。

学習過程では、グループ内で技能の習熟状況を評価しながら練習したり、それらの技能を組み合わせる演技を構成したり、マット上の演技の配置や跳び箱の置き方などを工夫したりする学習を繰り返す。そのためには、グループ内で必要な役割分担を決め、学習の進み具合に応じて学習スケジュールを柔軟に変更することが必要である。

以上の理由から、保健体育科の目標である生涯スポーツの態度や資質の向上が、運動場面における協同学習に適していると考え、本単元を設定した。

(2)組運動を進めるために生活班で構成する3～4人のグループを編成した。アンケート調査と基本技能の実技テスト（前転、後転、三点倒立、補助倒立、腕立開脚跳び）からまとめた各グループの特性は次の通りである。

（平成17年1月15日実施、対象1年1・4組男子24名）

	技能の程度	志向性の強い順序				
A	中	自己課題志向	>	集団課題志向	>	相互作用志向
B	高	相互作用志向	>	集団課題志向	>	自己課題志向
C	中	自己課題志向	>	相互作用志向	>	集団課題志向
D	中	自己課題志向	>	集団課題志向	>	相互作用志向
E	高	自己課題志向	>	集団課題志向	>	相互作用志向

※自己課題志向が強い…個人に与えられた課題について、解決することに高い関心を示す
集団課題志向が強い…集団に与えられた課題について、解決することに高い関心を示す
相互作用志向が強い…調和的な人間関係を維持しようとする傾向が強い

全体的に課題志向が強く、学習へ高い意欲を示すと予想される。しかし、個人の課題への志向性が強いと、集団の課題を求められる組運動の学習を進めることで意欲が低下することが予想される。

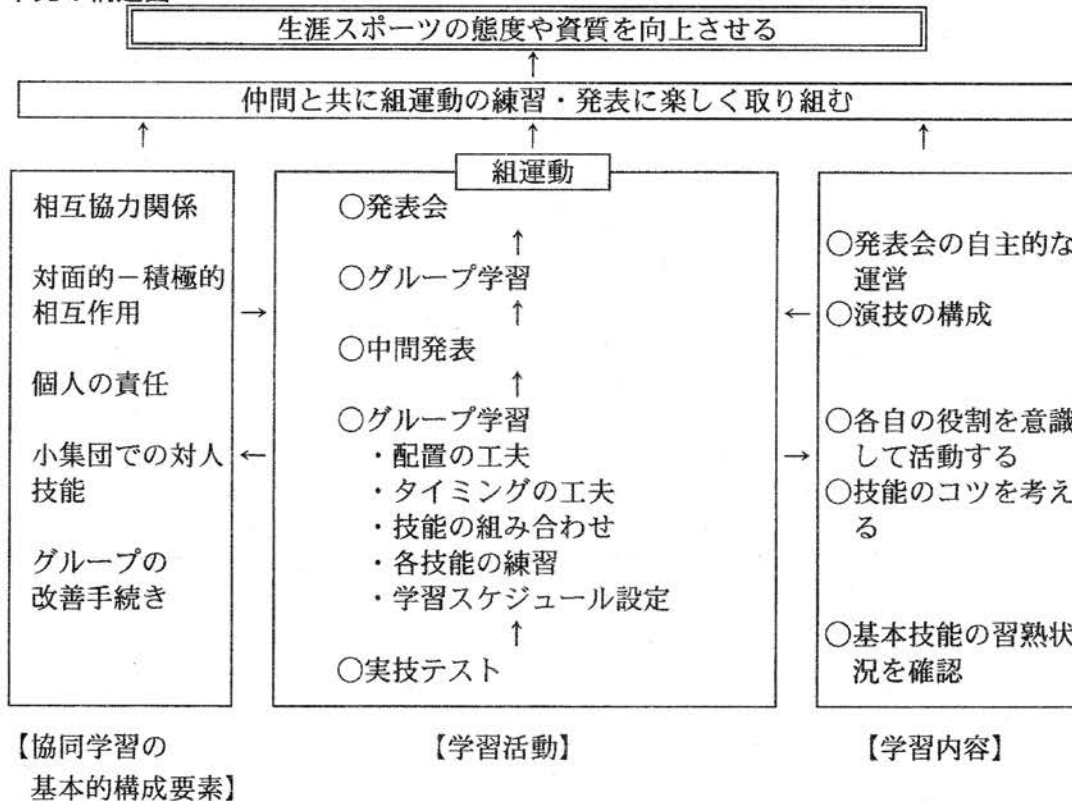
(3)本校では10年前から組運動を実施しているが、筋力の弱い1年生では二度目の試みとなる。体力だけでなく技能の習熟度が低く、既習技の少ない1年生で実施するためには、協同学習が体育の学び方を学習する場となるだけでなく、体力の向上や新しい技能を獲得できる場の役割も果たさなければならない。そこで本単元では次の手立てで協同学習を進めていく。

- ①組運動は技能と体力の個人差をカバーできる運動種目なので、技能や体力の差を考慮しない学級の生活班（男子3～4名）で学習グループを構成する。
 - ②グループ内で基本技能の習熟度テストを実施し、練習や演技を構成時の参考とさせる。
 - ③グループに必要な役割分担についてアンケートを実施し、アンケートに記入された全ての役割を次時に紹介する。それを参考にして各グループで必要と思われる役割を選択して分担させるが、必要に応じて柔軟に変更できるように説明する。
 - ④毎時の始めに、前時の成果から1時間の学習スケジュールをグループで話し合わせる。スケジュールは学習内容と使用する練習場所を合わせて考えさせるが、内容は進み具合に応じて変更できるように指示する。変更理由は振り返りの中で明らかにさせる。
 - ⑤協同学習による各グループの発達を測定するために、3時間に1回アンケート調査を行う。質問法による調査（12の質問、4件法）で対人的満足度と安定的所属感、情緒的援助行動、目標志向の相互作用、課題の満足度を測定する。
- 上記の手だて以外に、1年生の必修課題として毎時三点倒立の練習を行わせ、筋力と調整力の向上を図る。

2. 単元のねらい

- (1)グループ学習で協力して安全に、効率よく組運動の学習に取り組むことができる。
- (2)効果的な役割や評価、学習スケジュールを考えて学習を進めることができる。

3. 単元の構造図



4. 単元の展開と評価

時	流れ図 (学習主題・評価)	目 標	評価の観点				協同学習 の基本的 構成要素
			体 I	体 II	体 III	体 IV	
		<p>○以下の設問を4件法で回答する</p> <ol style="list-style-type: none"> 与えられた課題を努力して達成したい(自己課題志向) 仲間と協力して課題に取り組みたい(集団課題志向) 自分の長所を生かして、学習の成果を出したい(相互作用志向) 新しい課題に次々と挑戦したい(集団課題志向) 仲間にアドバイスし、励まして取り組みたい(相互作用志向) 自分の力をさらに伸ばしたい(自己課題志向) 自分たちでグループの課題を見つけて学習を進めたい(集団課題志向) グループでの役割を果たし、効率よく学習を進めたい(相互作用志向) 自分の弱点を克服したい(自己課題志向) 					
[1次] 1時	技能テスト	<p>○安全に学習を進めるための注意点や用具の使い方が確認できる。</p> <p>○グループで技能テストを行い、メンバーの基本技能の習熟状況が把握できる。</p>		○		○	① ①②
2時	利インテ-ション	<p>○上級生のビデオを視聴して組運動のイメージを高めることができる。</p> <p>○生活班によるグループ学習の進め方を理解できる。</p> <p>○学習ファイルの活用方法と振り返りの方法が分かる。</p> <p>○グループ学習に必要な役割分担を考慮することができる。</p>	○		○		① ①④ ①④ ①③
[2次] 1時 ~ 3時	各技能の練習 と演技の構成 ①	<p>○安全なマットや跳び箱の使い方が理解できる。</p> <p>○グループ内で教え合い、励まし合いながら練習できる。</p>	○			○	② ①⑤

時	流れ図 (学習主題・評価)	目 標	評価の観点				協同学習 の基本的 構成要素
			保体Ⅰ	保体Ⅱ	保体Ⅲ	保体Ⅳ	
	①	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進み具合に応じて1時間の学習スケジュールを考えることができる。 ○各自の役割を意識しながら取り組むことができる。 ○個々の技能を高めたり、技の組み合わせを考えることができる。 		○			①③④
[3次] 1時	中間発表会	<ul style="list-style-type: none"> ○グループの演技や個々の技能を評価し、課題を見つけることができる。 ○技能のタイミングや方向、技能の組み合わせを評価することができる。 ○必要に応じて役割の変更を考えることができる。 ○技能のタイミングや方向を工夫して、演技を再構成することができる。 		○			② ②⑤ ⑤ ⑤
[4次] 1時 (本時)	各技能の練習 と演技の構成	<ul style="list-style-type: none"> ○安全なマットや跳び箱の使い方が理解できる。 ○グループ内で教え合い、励まし合いながら練習することができる。 ○学習の進み具合に応じて1時間の学習スケジュールを考えることができる。 ○各自の役割を意識しながら取り組むことができる。 ○個々の技能を高めたり、技の組み合わせを考えることができる。 	○			○	② ①⑤ ①③④
2時 ～ 4時		<ul style="list-style-type: none"> ○各自の役割を意識しながら取り組むことができる。 ○個々の技能を高めたり、技の組み合わせを考えることができる。 	○			○	②
1時 「全 11 時間」	発表会 終	<ul style="list-style-type: none"> ○協力して自主的に発表会を運営できる。 ○他グループの発表を観察して、動きや構成の工夫を見つけることができる。 ○学習スケジュールの進め方や役割分担について振り返ることができる。 	○			○	① ② ①⑤

【評価の観点】

保体Ⅰ	運動や健康・安全についての意欲・関心・態度
保体Ⅱ	運動や健康・安全についての思考・判断
保体Ⅲ	運動の技能
保体Ⅳ	運動や健康・安全についての知識理解

【協同学習の基本的構成要素】

1	相互協力関係
2	対面的・積極的相互作用
3	個人の責任
4	小集団での対人技能
5	グループの改善手続き

5. 学習指導過程… 4次 1時

(1)主 題 各技能の練習と演技の構成

(3)学習指導過程

時	学習の流れ	生徒の学習活動	主な発問
0			
		<ul style="list-style-type: none"> ○リーダーの指示に従って、準備運動を行う。 ○本時の主題とねらいを各グループで確認する。 	
5		<ul style="list-style-type: none"> ○マットを使い、各自で三点倒立の練習を行う。必要に応じてグループ内で教え合いや補助を行う。 	
10		<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習スケジュールをグループで協議する。 ○使用する練習場所と時間を調整し、全員で確認する。 ○演技の構成に必要な用具を準備する。 	
15		<ul style="list-style-type: none"> ○学習スケジュールに従って、技能練習や演技の構成を行う。 ○グループ内で、教え合いや補助をしながら安全にグループ学習を進める。 ○学習の進み具合に応じて、スケジュールを変更して練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○うまくできない原因をみつけて教え
40		<ul style="list-style-type: none"> ○本時の取り組みについて各グループで以下の観点について振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく学習できたか。 ・技能は高まったか。 ・役割を意識して活動できたか。 ○各グループで整理運動を行う。 	
50			

- (2)ねらい
- ①グループ内で教え合い、励まし合いながら練習することができる。
 - ②個々の技能を高めたり、技の組み合わせを考えることができる。

・指示	指導上の留意点・評価	協同学習の基本的要素
<p>①は人によって違い ストを参考にして、 てあげましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○使用部位の運動が不足していれば、リーダーの指示を補う。 ○1グループずつ主題を全体に伝わるように発表させる。 ○練習場所を指示する。 ○それぞれのつまずきに合わせて、グループ内で助言や補助を行わせる。 ○前時の中間発表から、演技の構成に必要な技能について話し合わせる。 ○残りの授業時間から練習時間を設定する。 ○演技内容や練習内容に合った器具を準備する。 ○個々の課題に応じて、グループ内で適切に助言や補助をしているか。 ○グループ学習が、主題に応じて効率よく行われているか。 ○演技の構成や技能の組み合わせで工夫のある内容は全体に紹介する。 ○技能や演技の構成について仲間を教えるポイントや改善点についてグループ別に指導する。場合によってコーチを集めて指導する。 ○最後の練習場所で学習の振り返りを行わせる。 ○工夫のある演技や技能の組み合わせがあれば全体に紹介する。 ○疲労している部位のストレッチをゆっくりと行わせる。 	<p>相互協力関係</p> <p>小集団での対人技能</p> <p>相互協力関係</p> <p>個人の責任</p> <p>グループの改善手続き</p>